

AQUEOUS 4F PURE® SYSTEM

APLAUDO 水性4Fプーレシステム ●打ち放しコンクリート面生地仕上げ 水性高耐候性4フッ化フッ素樹脂クリヤー塗料

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

AQUEOUS 4F PURE® SYSTEM

APLAUDO®水性4Fプーレ®システム●打ち放しコンクリート面生地仕上げ 水性高耐候性4フッ化フッ素樹脂クリヤー塗料

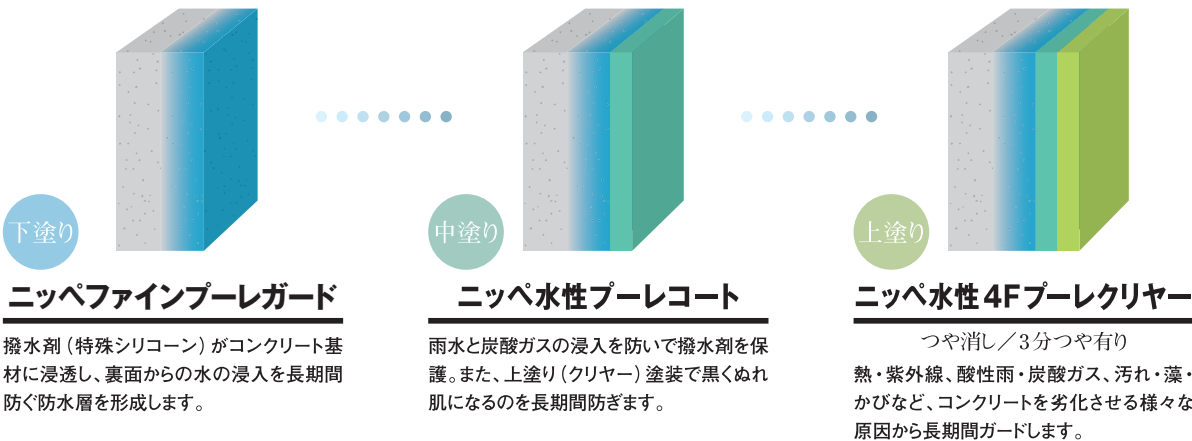
メカニズムと特徴

Mechanism and feature

過酷な環境からコンクリートを保護し、ぬれ肌を防止。
コンクリートならではの素材感を長期間キープする水性塗料。

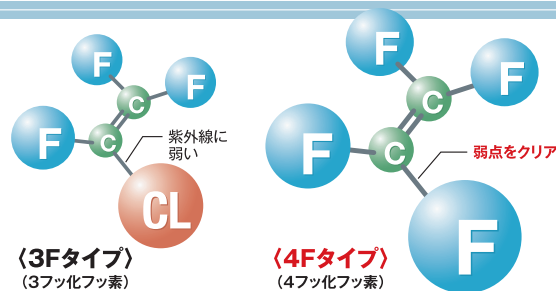
APLAUDO® 水性4Fプーレ®システム

打ち放しコンクリート面生地仕上げ 水性高耐候性4フッ化フッ素樹脂クリヤー塗料



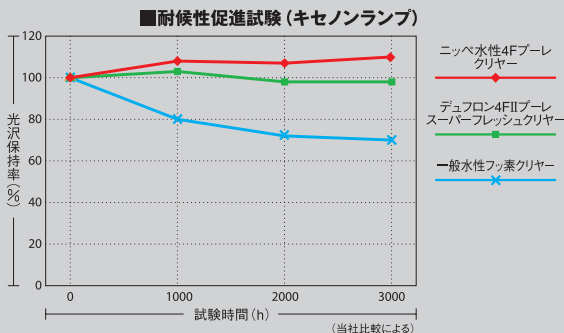
4Fの驚くべき技術力

従来、フッ化フッ素樹脂塗料といえば、「3Fタイプ」と呼ばれる3フッ化フッ素樹脂塗料が主流でした。しかし、塩素原子による劣化の「弱点」が見られたため、それを防ぐために日本ペイントの技術力を発揮。もうひとつのフッ化フッ素原子を加えるという画期的な発想を実現し、「4Fタイプ」の開発に成功しました。そうすることで、耐候性・低汚染性にすぐれた従来の3Fの性能をしのぐ、「4Fタイプ」塗料が誕生しました。



高耐候性

「水性4Fプーレシステム」は、すぐれた安定性から、紫外線に強く、劣化しにくい性質を持っています。そのため、建物を長期間、美しくまもり続けることができます。建物の塗り替えサイクルも長くなるため、維持費が減少し、手間もコストも削減できます。

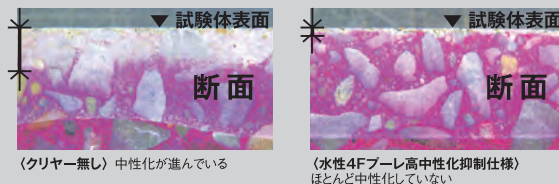


中性化抑制

アルカリ性であるコンクリートは、酸性雨や炭酸ガスに触れると中性化して、劣化していきます。「水性4Fプーレシステム」は、壁面をしっかりとコートするため、中性化につながる原因物質からコンクリートを長期間まもることができます。

■中性化促進試験

各試験片を室温20℃、湿度60%、CO₂濃度10%の条件下で14日間暴露。その後、試験片を切断し、切断面にフェノールフタレイン溶液を滴下して発色しない部分の厚さを測定。（当社比較による）



難関を突破して“水性”に

もはや、環境にやさしくなければ、次世代塗料とは言えません。そしてもちろん、塗料としての性能は、高ければ高いほど良い。だから日本ペイントは、高品質の性能を誇る「4F」で、環境にやさしい「水性」の塗料を実現させたいと考えました。しかし、「4F」と「水性」の両立には、二つの高いハードルがありました。そこで日本ペイントは、持てる技術力を集結し、大いに駆使。難関を突破し、新たな塗料を生み出すことに成功しました。

新技術1 4Fの「エマルジョン化」に成功!

「4F樹脂」は、溶剤になら容易に溶けます。しかし、水に溶かすことは非常に難しいため、水性化は困難を極めました。「ここで諦めては、夢の水性塗料は完成しない!」と感じた日本ペイントは、この高いハードルをクリアするために、従来の考え方にとらわれない新たな発想で開発に挑みました。

そして辿り着いたのが、**4Fをエマルジョン化するための、新たな「サポート樹脂」**の開発と導入。

これにより、「4Fのエマルジョン化」が実現するに至りました。

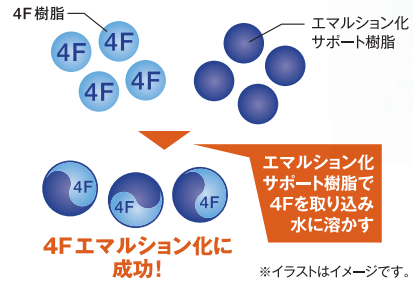
新技術2 4Fエマルジョンの「常温造膜」に成功!

しかし、「4Fエマルジョン」もこのままでは塗料として使用できないことが判明しました。常温での造膜は難しかったのです。その原因は、4Fの耐久性の秘密である「**安定性(=強さ)**」。約250℃という高熱を加えなければ造膜させることができなかったのです。4Fならではのメリットが、逆に「造膜」という変化を難しくさせたのです。これではせっかくの水性4Fも、真価を発揮することができません。しかし、ここで諦めないのが日本ペイントです。

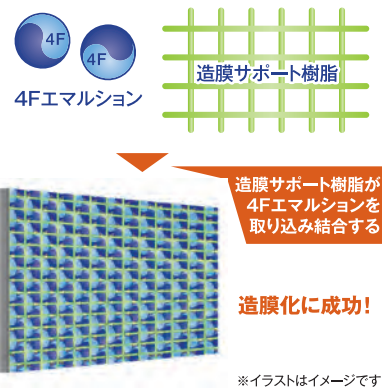
今度は新たに「**造膜サポート樹脂**」を開発。**4Fエマルジョンを取り込み、一枚のフィルム状**にすることで、美しく造膜することに成功しました。

これまで超えることが困難と思われてきた二つのハードルを、革新的技術でクリア。4Fが持つ「強さ」と、水性が持つ「環境へのやさしさ」とを同時にかなえる水性4F塗料が誕生したのです。

新技術1 4Fを水性化させる



新技術2 常温造膜させる



低汚染性

塗膜表面の硬度コントロールにより、雨垂れ汚染が壁面に定着しにくい。

■雨垂れ汚染暴露試験

塗装したスレート板を屋外に6カ月間暴露。水性4Fブーレを塗装したスレート板は雨垂れ汚染が少なく低汚染性機能を発揮しています。

(当社比較による)



一般水性 フッ素クリアー



水性4Fブーレクリアーつや消し

ぬれ肌防止

降雨などによる表面からの水分の浸入と、裏面からの水分によるぬれ肌を抑制。素材感を長期間保持します。

防藻・防かび性

藻やかびなどの発生を長期間抑制し、コンクリート面をまもりまします。

3

AQUEOUS
4F
PURE
SYSTEM



「水性4Fプーレシステム」の
ある風景(実績例)

Examples



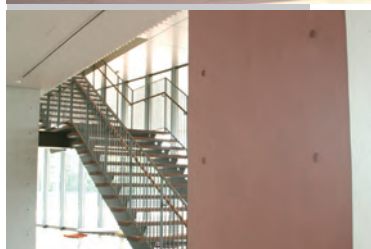
01

innovation

Meisei University

明星大学

デザイン性を高めることで、心地よい空間が実現。教育環境の整備に力を入れている明星大学様では、未来志向の学習環境を備えた新校舎を建設。最先端のIT環境を完備した教室だけでなく、レストランやカフェテリアなど、談話スペースも充実しています。居心地のよい空間を作るためにデザイン性も重視されており、外壁だけでなく、内装の一部としてもコンクリートの打ち放しを使用。建築家の意図したデザインを維持するために、経年による見た目の変化が起こりにくく、素材感が長続きする「水性4Fプーレシステム」を採用しました。いつまでも誇りに思ってもらえる校舎であるために、耐候性にすぐれた塗料が校舎をまもり続けています。





02

environment

Daikin Industries, Ltd.

ダイキン工業株式会社

人が集う場所には、環境にやさしい塗料を。築45年の食堂。憩いの場所を美しく修繕して、ここで働く人々へやすらぎの空間を提供したい、と、改修工事が行われました。ダイキン工業様は、環境意識の高い企業。古い建物を壊さずに復活させたいと考え、屋根は空調効率を高める遮熱塗装を、コンクリート打ち放しの外壁には傷みを修復する改修塗装を実施しました。ダイキン工業様の敷地は、地域の子どもたちに剣道場を貸し出したり、夏にお祭りを開催するなど、すでに地域コミュニティの一部となっています。ここで行われている環境や地域への取り組みは、見た目だけではわからないかもしれません。しかし、環境や人を思う気持ちはきっと、地域の人々にも伝わっていくことでしょう。



食堂は、植物の緑がよく映える美しい建物として再生しました。



03

historic value

Daifuku Co., Ltd.

株式会社ダイフク

社史に残る建物は、「建て替えずに保存」。昭和42年竣工の本社ビル・本館。建て替えの話も出ましたが、OB様や株主様より「貴重な建築物は残すべき」との声が高まり、全面リニューアルすることに。この一大事業の担当になったのは、本館竣工と同時に入社した社員様。まもなく定年を迎える大ベテランの方でした。本館は、社員150人だった町工場が、4,000人規模の一流企業へと成長する様を見守ってきた建物。「新旧の社員たちが愛着を持つ建築物だからこそ、失敗は許されない」と、担当者様は5年をかけて多くの事例を研究。その結果、「これだ!」と確信したのが「水性4Fプーレシステム」でした。「これなら、コンクリートの風合いを保持し、性能にも満足できる」と信じて施工したところ、本館の仕上がりには、担当者様を始め、役員・社員・株主ご一同様も大満足。「長年お世話になった会社にも、最後に恩返しができる良かった」とおっしゃる担当者様が定年を迎えられた後も、この建物は未永く、ここで働く社員たちを見守り続けていくことでしょう。



エントランス部分は、あえて以前のコンクリートを無塗装で活用。歴史の跡を残した重厚なムードで、訪れる人々を出迎えています。

外部 新設 打ち放しコンクリート面 生地仕上げ

工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥 時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、粉じん、油脂分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清掃清浄な面とする。 (P Cの乾燥養生期間目安は、含水率5%、pH9以下)						
下塗り	ニッペファインブレード (弱溶剤形コンクリート生地仕上げ用撥水剤)	1	0.20	16時間以上	無希釈	—	ウールローラー
中塗り	ニッペ水性ブレードコート (水性4フッ化フッ素樹脂用中塗りクリヤー)	1(注)	0.10～0.14	4時間以上	無希釈	—	ウールローラー
上塗り	ニッペ水性4Fブレードクリヤー (水性4フッ化フッ素樹脂系上塗りクリヤー塗料)	1	0.10～0.12	—	水道水	0～5	ウールローラー

※カラークリヤーを塗装する場合、色むら・つやむらが発生する場合がありますのでスプレーで塗装してください。

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

※塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

(注) ニッペ水性ブレードコートの塗り回数を標準塗装仕様からさらに1回増やすことで、「高中性化抑制仕様」を組むことができます。

改修 旧塗膜あり 経年打ち放しコンクリート面 生地仕上げ

工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥 時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
素地調整	高圧洗浄を行い、浮き塗膜などを除去して、乾燥した清浄な面とする。						
中塗り	ニッペ水性ブレードコート (水性4フッ化フッ素樹脂用中塗りクリヤー)	1	0.10～0.14	4時間以上	無希釈	—	ウールローラー
					水道水	10～20	エアスプレー
上塗り	ニッペ水性4Fブレードクリヤー (水性4フッ化フッ素樹脂系上塗りクリヤー塗料)	1	0.10～0.12	—	水道水	0～5	ウールローラー
						10～20	エアスプレー

※カラークリヤーを塗装する場合、色むら・つやむらが発生する場合がありますのでスプレーで塗装してください。

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

※塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

※塗装後は雨仕舞いを行うと共に、風通しを良くするように養生を行ってください。

※改修の際に旧塗膜クリヤーの種類によっては付着しない場合があります。試験塗装を実施するなど事前にご確認ください。

※旧塗膜が剥離している場合はニッペファインブレードを塗装してください。

※旧塗膜面に撥水材を塗装すると吸い込みがないため塗面に残存し、クリヤー塗膜の付着不良の原因となるので塗装は避けてください。

旧塗膜に付着した場合、ウエス拭きもしくは塗料用シンナーAで拭き取ってください。

改修 旧塗膜なし 経年打ち放しコンクリート面 生地仕上げ

工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥 時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、粉じん、油脂分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清掃清浄な面とする。 (P Cの乾燥養生期間目安は、含水率5%、pH9以下)						
下塗り	ニッペファインブレード (弱溶剤形コンクリート生地仕上げ用撥水剤)	1	0.20	16時間以上	無希釈	—	ウールローラー
中塗り	ニッペ水性ブレードコート (水性4フッ化フッ素樹脂用中塗りクリヤー)	2	0.10～0.14	4時間以上	無希釈	—	ウールローラー
上塗り	ニッペ水性4Fブレードクリヤー (水性4フッ化フッ素樹脂系上塗りクリヤー塗料)	1	0.10～0.12	—	水道水	0～5	ウールローラー

※カラークリヤーを塗装する場合、色むら・つやむらが発生する場合がありますのでスプレーで塗装してください。

※経年した外壁の打ち放しコンクリート面への塗装は、経年劣化が進行しており、コンクリート表層内劣化部から剥離するおそれがあります。

クラックが発生したり、こすって骨材が落ちたりしているコンクリート劣化部で、必ず試験施工を行って密着性を確認してください。

密着性は、ガムテープもしくは養生テープを用いたテープテストにより、確認できます。まず無塗装の状態で行うことをおすすめします。

この時点で表層劣化部がテープに付着する場合は、塗装を施してもテープ剥離を起こします。

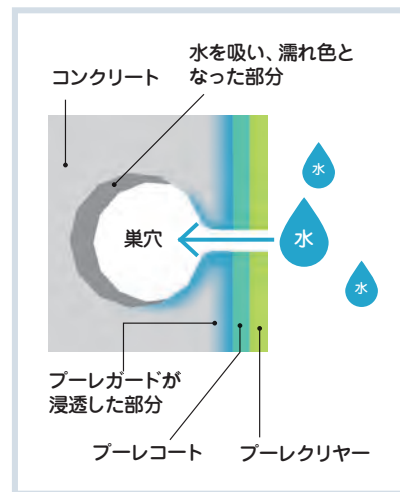
※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

※塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

(注) 下地の吸い込み度合いによって、使用量が数値よりも大幅に増減する場合があります。

初期降雨による濡れ色防止のために

- ◆弱溶剤形コンクリート生地仕上げ用撥水剤(ニッペファインブーレガード)が濡れ色になるまで十分に塗り込んでください。
- ◆特に撥水剤(ニッペファインブーレガード)が不足すると降雨による水濡れ性の原因となります。
- ◆躯体の状態によっては、使用量では不十分なケースがあります。
特に巣穴の多い躯体、もしくは巣穴付近では、不十分なケースが発生しやすくなります。
躯体へ撥水剤が十分浸透するように塗り込んでください。
- ◆巣穴・ジャンカ・ひび割れなどがある場合には、あらかじめ素地補修などを行ってください。
特に大きな巣穴などの場合、塗装で十分に保護できないことがあります。
- ◆巣穴に撥水剤が十分に浸透しやすいように十文字などの塗る方向を変える。
塗り込み回数を増やすように塗装をしてください。
特に、表面上は小さな巣穴であっても、中が大きな空洞となっている場合は、
撥水剤の効果が十分に発揮されず、降雨などにより巣穴付近から濡れ色になることがあります。
- ◆部位や塗装箇所の面積を把握し、塗料を事前に準備し、全て塗り込んでください。
- ◆塗装前後、各2日間以上は雨仕舞いをしてください。
- ◆無塗装面からの雨水浸入防止のため、撥水剤を塗付など考慮ください。
- ◆塗装後は雨仕舞いを行うと共に、風通しを良くするように養生を行ってください。
乾燥と反応がより早く進めば性能の発現もより早くなります。
- ◆塗装後の保管は直接降雨が当たらない配慮をお願い致します。



下地調整

- ニッペ水性4Fブレードクリヤーの仕上がりは、素地が決め手です。下地調整には、下記の点に十分な注意をしてください。
- ◆目印は、ウエスで簡単に拭き取れるものを使用し、コンクリートの表面を汚す墨出し、および傷をつける道具は避けてください。
 - ◆はり・突き出し部分・木繊維などの除去には、周りを傷つけやすいディスクサンダーを使用しないで、タガネではつり取ってください。
 - ◆コンクリート表面に付着した汚れ・泥土・コンパネ灰汁などは、#180～240のサンドペーパーで除去し、水洗い清掃してください。
 - ◆水性4Fブレードクリヤー仕上げするうえでの望ましいコンクリート面は、
(1)均質、均一な打ち放し面が得られること (2)巣穴、ジャンカがないこと (3)不陸がないこと
均質、均一な面が要求されるのは、素地の吸い込み差および、面精度の差、材質の差をなくすためです。これらの差によって、発色が異なって色むらが生じます。
 - ◆ジャンカ・欠損部・大きな気泡穴などに用いる補修モルタルは、白セメントとケイ砂を合成樹脂エマルジョン水溶液で混練りして、
コンクリート色よりも濃い色に調合してください。
※補修は、見切りの良い部分まで形状を模様となるように補修してください。※補修モルタルとコンクリートでは、吸い込み表面粗度に差があります。
 - ◆補修モルタルは、すべて「カナゴテ」で塗り、平滑に仕上げてください。
 - ◆部分的に点在しているあばた状の凹凸したコンクリート肌は、光の陰で色むらに見えるため、
目立つ部分は樹脂入りの白セメントで補修して平滑に仕上げてください。
 - ◆コンパネジョイント部の樹脂入り白セメントモルタル補修塗りは、平滑に仕上げないで適宜目違いを付けてください。
 - ◆目立ちやすい直径7mm以上の気泡穴は、樹脂入り白セメントモルタルで塗りつぶし、穴の回りは水を含ませたスポンジできれいに拭いてください。
 - ◆打ち放し仕上げ面のモルタル補修による模様の消失部には、型枠模様を造成します。
 - ◆補修材として、「セメントノロ」、などは使用しないでください。また骨材として、パーライトなどの軽量骨材は使用しないでください。
 - ◆パネルは、面で共用なものにしてください。
 - ◆下地補修のチェック方法は、補修なし、補修ありの両面に水をかけ、なるべく同色になるようにしてください。

塗装

- ◆ニッペファインブーレガードはダレやすいので、むら切りのためにローラーやはけでならしを行ってください。
- ◆塗装に際しては、素地へのなじみ具合をみながら、膜厚が均一になるように塗付してください。
- ◆スポット補修は、色むらやつやむらを起こしやすくなります。足場カゲなどに留意してください。
- ◆厚塗りによりタレを生じると色むら、つやむらが生じるおそれがあります。特にカラークリヤーは留意してください。
- ◆カラークリヤーは使用量・膜厚によって色相が変わります。膜厚が均一となるように塗付してください。

その他

- コンクリートの仕上がり外観がそのまま仕上がるのが、水性4Fブレードシステムの特長です。
- ◆コンクリート打ち放し面のジャンカ、ピンホール、欠損部やモルタル充填跡などの補修。
 - ◆コンクリート生地の色むらの補修などは特殊塗装工事が別途必要です。
(これらの補修塗装工事は特殊な補修技術を持った専門業者へ依頼してください)
 - ◆素地の吸い込み差、使用量、塗装方法などで仕上がり外観が変わりますので、必ず現場で試験塗装を行い、
壁面の仕上がり予測を十分関係者間で調整してください。

商品体系

商品名	系統	容量	色相	つや
ニッペファインブーレガード	弱溶剤形コンクリート生地仕上げ用撥水剤	14kg	—	—
ニッペ水性ブレードコート	水性4フッ化フッ素樹脂用中塗りクリヤー	15kg	—	—
ニッペ水性4Fブレードクリヤー	水性4フッ化フッ素樹脂系 上塗りクリヤー塗料	15kg	クリヤー/ カラークリヤー	つや消し/ 3分つや有り

■ 施工上の要点・注意事項 (詳細な内容については各製品の製品使用説明書などにてご確認ください)

ニッペ水性4Fブルーレクリヤー

● 中塗りは必ず専用中塗りをご使用ください。

1. 表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、巣穴、ひび割れ、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。ただし正常面と異なる色相になることがありますのでご注意ください。また特に大きな巣穴などの場合塗装で十分に保護できないことがあります。
2. 下塗材にエポキシ樹脂塗料(ニッペ浸透性シーラー(新)など)は使用しないでください。変色、はく離の可能性があります。
3. 経年した外壁の打ち直しコンクリート面への塗装は、劣化が進行しており、コンクリート表層内劣化部からはく離するおそれがあります。クラックが発生したり、こすって骨材が落ちたりしているコンクリート劣化部で、必ず試験施工をおこなって付着性を確認してください。
4. シーリング面は、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがあります。
5. 厚塗りによるとれを生じると、色むら、つやむらが生じるおそれがあります。特にカラーレクリヤーは留意してください。
6. カラーレクリヤーは使用量・膜厚によって色相が変わります。膜厚が均一となるように塗付してください。
7. エフロレッセンスなど汚れの除去で素地の洗浄を行う場合、薬剤(酸、洗剤など)が残らないよう、後水洗は十分行い、乾燥した洗浄面にしてください。
8. さび汁などがある場合は、サンドペーパーで除去してください。
9. 吸い込みやすい基材では使用量が多くなります。
10. 面内での塗り継ぎは、継ぎむらが発生しやすいので素早く行ってください
11. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
12. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
13. 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
14. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
15. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
16. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
17. 著しい汚染が発生しそうな箇所には、状況に応じてニッペクリスタコートオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができます。
18. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温・高湿度、通風の無い場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。

19. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
20. スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業効率の低下および塗むらの原因になります。
21. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
22. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこなっておそれがあります。
23. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケット科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
24. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
25. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
26. 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
27. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
28. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
29. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
30. 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
31. 塗色には必ず当社専用の原色をお使いください。
32. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
33. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
34. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
35. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
36. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
37. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
38. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
39. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
40. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

安全衛生上の注意事項 ニッペ水性4Fブルーレクリヤー つや消し

横 倒 禁 止

1. 本来の用途以外に使用しないでください。
2. 取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
3. 口をすすいでください。
4. 容器からこぼれた時には、砂などを散布した後処理してください。
5. 吸入した場合:気分が悪い時は、医師に連絡してください。
6. 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。
7. 施錠して保管してください。
8. 直射日光や水濡れは厳禁です。
9. 塗料等の缶の積み重ねは3段までとしてください。
10. 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上(スプレー缶の場合は40℃以上)の温度にばく露しないでください。

11. 容器はつり上げないでください。やむを得ずつり上げるときには、適切なつり具で、垂直に持ち上げ、落下に十分注意してください。(偏荷重になると取っ手が外れ、落下事故の危険があります。)
12. 内容物/容器を国/地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
13. 容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

※上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。
 ■詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。
 ■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

●本カタログの内容については予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
 ●本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
 ●©Copyright 2019 NIPPON PAINT Co.,LTD. All rights reserved.
 ●日本ペイントホームページ <http://www.nipponpaint.co.jp/>

日本ペイント株式会社

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 北海道支店 ☎011-370-3101 | 近畿支店 ☎06-6455-9608 |
| 東北支店 ☎022-232-6712 | 中国支店 ☎082-281-2180 |
| 関東支店 ☎03-5479-3614 | 四国支店 ☎0877-56-2346 |
| 北関東信越支店 ☎03-5479-3614 | 九州支店 ☎092-751-9861 |
| 中部支店 ☎052-461-1960 | |

カタログNo.

NP-W202

TY190302T
2019年3月現在